

## 第7回臨書展

### 【青梅市日本中国友好協会会長賞】

主催 一般社団法人日本書字文化協会  
後援 青梅市、中国大使館文化部  
東京都青梅市日本中国友好協会  
中国書法学院、国際芸術家連盟  
NPO 法人日中文化交流促進会  
中国国立南京芸術学院日本校  
蘇州・寒山寺、蘇州呉昌碩研究会

東京都・青梅市立第二中学校 1年  
関口 美夢

#### 地元ゆかりの賞でうれしさひとしお

私は臨書展の作品仕上げが好きです。

今回の作品は、楽しみにしながら習いに行けました。なぜなら、普段は、楷書や行書でも基本的な書き方が主ですが、自由にのびのび書けるイメージの行書だからです。

また、臨書展では道具も違うものが使えます。書くと驚くほどぐねぐねの羊毛も自分では思ってもいない線を表現してくれます。筆の開きや勢いで出来た表現は、常に出るものでもなく、書く中で同じ線が出るとは限らないので、そういう線が出た時は「ラッキー」と思うといいよ、と先生は良い線のことを教えてくれます。

そのような中で、学校の国語(書写)の授業で、筆や硯等を作っている職人さんのDVDを見たことを思い返しました。取り上げられていた筆は、広島県の熊野筆でした。私が一番衝撃を受けたのは、職人さんが逆毛などを揃えるところです。逆毛等は機械でパッと終わるのかと思っていましたが、指の感覚だけで揃えて、余分な毛を抜き取ったりしていました。その技術の高さから、近年ではお化粧のチークやブラシ等にも使われているそうです。

これから私は、筆一つひとつ、毛一本いっぽんに思いを込めて作ってくれた職人さんや、筆の大元となる動物たちにも感謝して書いていきたいです。

この度は自分の地元でもある、青梅日中友好協会会長賞をいただき、喜びも一入です。ありがとうございました。